

Hayakawa town new government office building project

Utilization of a WOOD made in Hayakawa town 早川町産木材の活用について

Novelty / Originality

新たな視点や独創的な発想で木材の利用価値を上げる

内装材において、あえて節のある部分を使用したり、色合わせをしない等、内部造作材としてはじかれてしまいがちな部分を使用することで、丸太を使い切る課題に取り組んでいます。今後の使用過程において節抜け・色焼け等の自然な経年変化を許容することで、木材の利用価値を広げたプロジェクトとなりました。



天井木製ルーバー

内装材

柱

The design / Modeling

早川町の風景や自然の素材を活かしたデザイン・構造

Wood design concept

ダイナミックな断層・山や川の流れや動きをデザインに取り込み、かけがえのない山々の風景を感じ取れる空間づくりを目指しました。

町民をはじめ、訪れる方々を早川町らしく、あたたかくお迎えするカタチを表現しています。



大断層



木材を活用した空間が来訪者を優しくお迎えます

受付カウンターは、サイズの違う部材・色・樹種を組み合わせ、地域の観光資源であるフォッサマグナの大断層をイメージするデザインとして製作し、新庁舎の顔となっています。また、地元産の雨畑硯石をアクセントとしたパンフレット架や雨畑硯の原料となる、粘板岩顔料とした塗装を施した待合ベンチなど、木材だけでなく地元の素材を活用した、異素材とのコラボレーションによるトータルデザインを行っています。

建築的には、木造部分の2階の大会議室で、木造を浮き立たせるデザインをし、白い天井・壁面へ天井架構と木造ルーバー及びライン照明を用いて早川町の山の広がり川の流れをイメージしています。

各エリアにふんだんに活用しているガラス部分には“カワセミ”をもちいたデザインを施しており、空間に賑わいを添えています。



大断層をデザインモチーフとした受付カウンター



異素材との組合せによるパンフレット棚



ベンチの側板部分は、塗装仕上げ雨畑硯の原料となる、粘板岩を顔料とした塗装仕上げ。



2階の会議室



早川町の“カワセミ”をデザインに

The spread enlightenment effect

早川町役場を情報発信の場とし、他の製品や取り組みへ波及・展開

早川町新庁舎建設では、設計段階から広く情報発信を行い、ワークショップの開催、住民インタビュー、早川町ホームページ、市町村交流、現場見学会等で建設過程を紹介し地元産木材を利活用した庁舎づくりについての広報活動を積極的に行ないました。今後は、新庁舎を情報発信の場として、町民・県内のみならず、一般へ広く早川町への取り組みを紹介する為、多目的交流スペースを早川町のメインショールーム的な場所として、2階の会議室を町民及び一般利用の場として、広く利用していく予定です。



地域へ開かれた多目的交流スペース

▼パジェロの森での植樹活動の様子



Environment consideration

苗木の植樹及び森林の整備・再生と省エネルギーの実現

森林保全、地球温暖化防止の為、伐採後、企業の森（パジェロの森）として活用され、三菱自動車の社員やその家族による苗木の植樹及び森林の整備・再生に取り組んでいます。